

「 山にかこまれた家 」

岐阜県 揖斐川町立谷汲小学校 3年 <sup>のぎき</sup>野崎 <sup>ふうか</sup>楓禾

わたしの家のうらは、すぐ山です。家の前にも山があり、家のまわりは山にかこまれています。わたしが大ききなこうよのきせつは、いろいろな色にかわるすてきな山になります。

でも、雨がたくさんふる日は、家のうら山から土しゃが流れてくるのではないかといつも心配になります。それは、すんでいる家が土しゃさいがいけいかいくいきにたっているからです。さいがいのあった時に近所の人たちがひなんする公みん館も土しゃさいがいけいかいくいきにたっています。家のうらはすぐ山なので、大雨がふれば、たくさんの土しゃが流れてきそうです。

そんなきけんなところに家がたっているのに、たくさん雨がふっても、一ども土しゃで流されたことがないのは、さぼうえんていのおかげかもしれません。土石流などの土しゃさいがいから山がわにある家や住んでいる人をまもるため、さぼうえんていはつくられていると、夏休みのラジオ体そうに行く時、さぼうえんていにつづく水路を見て、お母さんが教えてくれました。だから、ぜったいに安全だと思えないけど、さぼうえんていがわたしたちの家や家族をまもっていると思ったら、少しだけ安心しました。家のまわりを歩いてみると、家のうらのほかにもさぼうえんていがあることに気がつきました。

さぼうえんていは、だまって山のまわりに住む人たちをまもっていてくれるんだね。

おばあちゃんがすごくわかかった時、おじいちゃんと二人でうら山に小さなすぎのなえをうえました。急なさかで立っているだけでも大へんだったそうです。うら山を見上げると、木はとても大きくなっています。これからも、おばあちゃんとおじいちゃんがうえた木といっしょに、わたしたちをまもってくれるような気がしたよ。